

七尾仏壇

歴史

応永16年(1409年)能登の守護職として入国した畠山氏は、京都文化を積極的に取り入れ、指物、彫刻、蒔絵、製箔などの工芸の振興を図った。その後、前田利家の七尾入城と共に多数の職人が移り住み、仏壇の製作のみならず神社・仏閣の再興に活躍したと言われている。元和2年(1616年)の七尾の地図には、塗師[ぬし]町、木町、大工町等



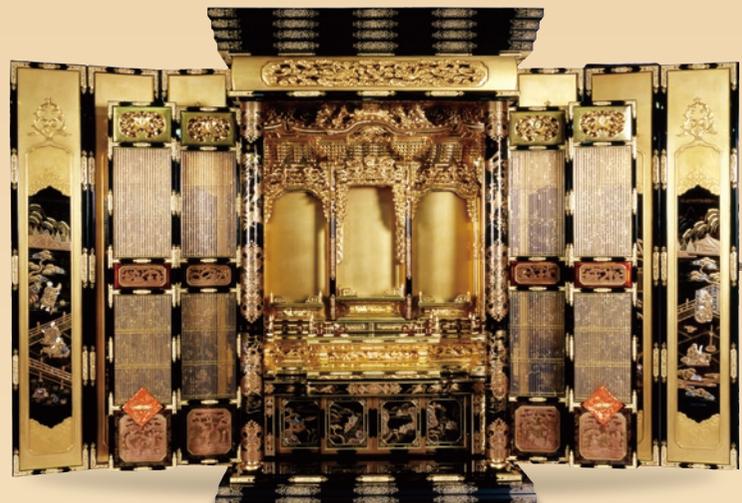
の名が見られる。七尾では、仏壇店のことを「ぬしや」と呼ぶことから、このころから仏壇製造業者が定着していたことがうかがえる。

特色

七尾仏壇は、長い歴史をもつ七尾の文化を表している芸術品です。現代では数少ない完全な職人による温かみのある手作り仏壇で、堅牢で荘厳華麗な作りです。

材料には、狂いが少なく長持ちする能登アテ、能登ヒバの木が使われます。製品は状態の悪い道での運搬に耐えられるように、堅牢に仕上げてあります。本体はすべてほぞ組で、塗り加工は「錆(さび)仕立」で上質な漆を使用し、金具はすべて手打ちで仕上げられています。

多くの工程が手作りの仏壇でほぞ組、堅地塗りなので、数回の分解修理に耐えることができます。



七尾佛坛

历史和特色

15世纪, 统管能登地区的田山氏积极地引进京都文化, 致力于振兴组装木工、雕刻、泥金画、制箔等工艺。其后, 加贺藩主前田利家在16世纪入住七尾城, 众多能工巧匠也移住七尾, 不仅在佛坛的制作上, 而且也为神社、寺院的再兴作出了贡献。

佛坛的木材选用不翘棱、耐久性强的能登丝柏木。七尾佛坛不使用钉子, 用“卯榫组合”方式组装而成, 再施以防锈涂漆加工。由人员稀少的巧匠制出的七尾佛坛拥有悠久的历史, 是七尾文化的代表性艺术品。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	七尾市(七尾市)・中能登町(中能登町)
主な製品名(主要产品名)	仏壇、神輿(佛坛、神輿)
主な生産者(主要生产者)	七尾仏壇協同組合(七尾佛坛协同组合) 〒926-0802 七尾市三島町70-1(七尾市三島町70-1) TEL (0767) 54-8888 FAX (0767) 54-8811